

【第2期壬生町創生総合戦略効果検証シート（令和6年度事業）】

※「第2期壬生町創生総合戦略」のKPIを記載しておりますので、冊子と併せて御確認してください。

基本目標1：壬生町における安定した雇用を創出する

数値目標	総合政策課	基準値 (H27)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
就業者数（国勢調査）		19,919人	19,510人	-	-	-	-	20,516人	未評価

○戦略プロジェクト1-1：産業の振興と雇用の創出

重要業績評価指標 (以下、KPI)	商工観光課	基準値 (H30)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7までの累計)	R7進捗度
産業振興奨励金交付企業数		8社	4社	3社	3社	4社	4社	15社	達成見込
実績値の分析・評価	既存の産業団地には新たな分譲用地がない状況の本町であるが、町内の既立地企業による規模拡大のための工場等の増改築及び町外企業の進出がコンスタントになされており、町内産業・経済の活性化が図られているといえる。コスト高や世界経済が先行き不透明な情勢であるが、今後も企業・事業者の設備投資計画は継続していくと考えており、町内への進出及び町内事業所への支援を継続していきたい。								
今後の取組み	産業振興奨励金の交付要件・交付内容を、企業にとってわかりやすい内容に見直した。現在県企業局が整備しているみぶ中泉産業団地では、今年度の予約分譲案内、令和10年度の土地引き渡しを予定している。産業団地への立地企業に対して産業振興奨励金をはじめとする各種支援を県と連携して実施していきたい。								
KPI	商工観光課	基準値 (H30)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
就労情報提供数		64回	83回	66回	72回	72回	72回	70回	達成見込
実績値の分析・評価	6年度まではハローワーク栃木が発行する「ハローワーク求人情報」を本庁、両出張所で配布していたほか、県が実施する各種セミナー、相談会などの情報を町HPで周知してきた。								
今後の取組み	「ハローワーク求人情報」の紙配布が6年度いっぱい終了した。7年4月からは町HPにおいて、ハローワークの「かんたん求人情報」を案内するページを作成し、働きたい人への情報提供を実施している。また、併せて県の就職支援サイト「Work Workとちぎ」についても同ページで案内し周知している。事業主・就職したい人への国、県の支援策等について、情報提供をしっかりとっていく。								

○戦略プロジェクト1-2：農商工業連携による町の活性化

KPI	農政課	基準値 (R1.7)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
認定農業者数		215人	208人	207人	206人	205人	194人	250人	努力が必要
実績値の分析・評価	自らの創意工夫に基づき、経営の改善を進めようとする意欲ある農業者を認定農業者として認定し、農地集積や制度資金の活用等に対する支援を行った。令和6年度は新たに認定農業者となった者がいたものの、高齢化等により認定の更新をしなかった農業者もいたことから、目標値を下回った。								
今後の取組み	県等の関係機関と協力しながら、認定農業者の確保・育成を推進し、認定新規就農者から認定農業者に移行を図ることで認定農業者数の確保を図る。								
KPI	商工観光課	基準値 (H30)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
地域ブランド品目認定数		31件	35件	36件	36件	32件	35件	40件	努力が必要
実績値の分析・評価	魅力的かつ商品の継続的供給ができるよう、認定品の精査を行い令和5年度に認定件数は減少したが、6年度にも小山北桜高校と(株)篠原商店連名による「かんびょうミルクアイス」をはじめ3件をブランド認定することができた。								
今後の取組み	「みぶブランド」認定品が壬生町を表す特産品として、より一層魅力を高められるよう、また、認定品そのものが町とともに持続可能な発展をしていけるよう、事業者間の交流・情報交換や、各種イベント等においてPRを積極的に行っていくことが必要と考えている。 「みぶブランド」の活性化及び更なる魅力を高めるためにも、新たに認定の可能性のある商品の発掘、開発等について引き続き進めていく								

○戦略プロジェクト1-3：地域産業を守る後継者の育成

KPI	農政課	基準値 (H30)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7までの累計)	R7進捗度
新規就農者数		5人	3人	3人	2人	3人	4人	10人	達成見込
実績値の分析・評価	町農業委員会や県、JA等の関係機関と連携し、新規就農希望者が抱える「技術」・「農地」・「資金」の相談に丁寧に対応することにより、新規就農者を確保することができた。								
今後の取組み	関係機関との連携強化により就農検討段階から農業への定着まで一貫した支援を行う体制づくりを目指す。県内外で就農相談に参加して、希望者から選ばれる魅力的な就農地として壬生町を町内外にPRしていく。								

基本目標2：壬生町への新しい人の流れをつくる

数値目標	商工観光課 住民課	基準値 (H30)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
観光客人込数		370.9万人	209.6万人	222.8万人	266.5万人	320.0万人	351.9万人	5%増加 (389.5万人)	順調に推移
転入者数(住民基本台帳)		1,350人	1,192人	1,241人	1,486人	1,366人	1,361人	5%増加 (1,417人)	努力が必要

○戦略プロジェクト2-1：タウンプロモーションによる定住促進

KPI	総合政策課	基準値 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
壬生町公式ウェブサイトアクセス数		36,283件/月	51,794件/月	59,703件/月	51,369件/月	102,426件/月	102,941件/月	40,000件/月	順調に推移
実績値の分析・評価	令和5年度途中でWEBサイトを改修した結果、見られやすい構成になったことや各種届出関係に必要な申請書類のダウンロードが可能になっていること、町行事に対する閲覧者の興味・期待が高いこと等が要因となりアクセス回数が増加したと考えられる。								
今後の取組み	イベント等も平時並みになったことやアクセス件数の増加傾向からも、オンライン環境で情報を得る方が増加してきている傾向とも考えられる。今後も引き続き、公式ウェブサイト内での情報発信強化や公式SNSとともに積極的かつわかりやすく情報を発信していく。								
KPI	総合政策課	基準値 (H30)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
ふるさと応援寄附件数		5,357件	2,720件	2,573件	2,392件	3,591件	4,462件	6,000件	努力が必要
実績値の分析・評価	ふるさと納税の掲載サイト(ポータルサイト)の増加・返礼品の新規開拓や新規商品の掲載等により昨年度に比べて寄附件数は増えた。しかしながら令和元年度の地方税改正等により寄附額に占める返礼品費用の割合や取り扱える返礼品についての制限が課せられたことから、基準となった平成30年度の水準には届いていない。寄附額については令和6年度は93,440,500円となり、前年度比122%となった。(令和5年度寄附額76,479,000円)								
今後の取組み	令和5年度より返礼品新規開拓を含めて業務委託を開始したことによって、徐々にではあるが寄附件数が増加している。今後も継続して返礼品の新規開拓を図るほか、返礼品掲載ページの見直し、返礼品掲載ポータルサイトの拡大などふるさと納税件数の増加につながる取組みを実施していく。								

○戦略プロジェクト2-2：壬力ある観光・交流の促進

KPI	商工観光課	基準値 (H30)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
みぶハイウェーパーク来訪者数		226.1万人	128.1万人	148.9万人	179.1万人	195.1万人	197.0万人	250.0万人	努力が必要
実績値の分析・評価	来訪者数そのものは、前年を上回っているが、コロナ禍以前の来訪者数までの回復までには至っておらず、もう少し時間を要しそうな状況であるが、リニューアル整備工事も佳境となり、来訪者数は大きく増加することが期待される。								
今後の取組み	リニューアル工事も進んでいき、壬生の魅力ある商品の販売、日本一広い道の駅を構成する4施設の強み、さらに今後整備がはじまるスマートインターチェンジにより周辺施設の充実が図られることから、道の駅の魅力、壬生町の魅力を発信する拠点として、整備、周知を図っていききたい。								
KPI	商工観光課	基準値 (H30)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
町内の東武鉄道駅乗降客数		7,045人	5,465人	5,940人	5,963人	6,326人	6,524人	7,300人	努力が必要
実績値の分析・評価	コロナ禍で落ち込んだ電車利用も復調してきているとはいえ、目標値まではもう少し時間を要する。コロナ禍を経て日常・生活スタイルの変化も多少なり影響していると考えている。								
今後の取組み	県民の日のイベント、東武宇都宮線フリー乗車DAYの認知も進んできており、町内4駅でのおもてなしについても引き続き実施していきたい。 おもちゃのまち駅に整備したエレベーターにはおもちゃメーカー協力によるラッピングが実施され、身近で利便性の高い公共交通としてのみならず、「おもちゃ」、「観光」といった視点も加わった。町内に4駅のそれぞれのポテンシャルを活かせるようコミュニティバス「みぶーぶ」をはじめ、地域住民、観光需要に対応できる公共交通体系構築を図っていききたい。								

○戦略プロジェクト2-3：郷土愛の醸成によるUIターン推進

KPI	生涯学習課	基準値 (H30)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
中学生等地域活動参加人数(延べ人数)		432人	0人	146人	338人	457人	313人	500人	努力が必要
実績値の分析・評価	昨年度より事業件数は増加しましたが、一部の事業実施日と学校行事が重複したため参加人数が伸び悩む結果となった。								
今後の取組み	次代の担い手である中学生等に対して、地域の大人と共に地域社会で活躍できる機会を地域団体等との協働により提供していく。中学生等が様々な価値観や人生観を有する地域の大人とのかかわりあいを通して、自己肯定感や郷土愛を高めたり、人の役に立つ経験を通して、自己有用感を育んだりする事業を展開する。 今後については、学校行事と重複しない事業日の設定やより充実した内容への見直しを行い、より参加しやすくなるような事業を検討いたします。								

基本目標3：壬生町で結婚・出産・子育ての希望をかなえる

数値目標	こども未来課	基準値 (H30)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
合計特殊出生率		1.25	1.22	1.15	1.04	0.98	-	1.80	未評価

※令和6年度の数値が公表されていないため未評価

○戦略プロジェクト3-1：すくすく安心の子育て支援

KPI	こども未来課	基準値 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
学童クラブ利用者数		598人	652人	680人	703人	688人	690人	650人	達成見込
実績値の分析・評価	学童クラブ利用希望者が多く、令和2年度から目標値を上回る状況が続いている。								
今後の取組み	学童クラブの整備により、R8年度以降の定員を100人増としていく予定である。								
KPI	こども未来課	基準値 (H30)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
保育園等利用者の割合		67.8%	70.8%	74.3%	75.2%	75.6%	76.3%	80.5%	努力が必要
実績値の分析・評価	年度末時点の保育園等の利用割合は増加傾向にある。壬生町在住の0歳から5歳児の人口減少と保育を必要とする世帯の増加が要因として考えられる。								
今後の取組み	保育園等の利用希望者が、希望するタイミングで園の利用をできるよう、園や他市町村との連携を強化していく。								
KPI	こども未来課	基準値 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
子育て応援サイトアクセス数		1,707件/月平均	2,703件/月平均	1,695件/月平均	1,635件/月平均	1,455件/月平均	664件/月平均	2,500件/月平均	努力が必要
実績値の分析・評価	R6年度のアクセス数が激減した要因は明確ではないものの、R5年度から子育て支援アプリミコナ（PCサイトあり）を開設したことから、アクセスが分散した可能性が考えられる。								
今後の取組み	新たに開設したミコナには電子母子手帳等の機能も搭載されていることから、子育て応援サイトとの統合を進めていきたい。								

○戦略プロジェクト3-2：素敵な出会い支援と結婚観の向上

KPI	こども未来課	基準値 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
婚活支援事業数		1事業	0事業	0事業	0事業	3事業	3事業	3事業	達成見込
実績値の分析・評価	コロナ禍においては事業の実施が困難であったが、R5年度からは3事業を継続して実施している。								
今後の取組み	支援に関する事業については総合政策課を含め関係部署と連携の上取り組んでいきたい。								

○戦略プロジェクト3-3：ワーク・ライフ・バランスの推進

KPI	商工観光課	基準値 (H30)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
ワーク・ライフ・バランス啓発件数		11件	41件	42件	42件	40件	31件	15件	達成見込
実績値の分析・評価	国、県等から出されるワーク・ライフ・バランスをはじめ、働きやすい職場環境づくりについての施策、啓発について、広報、町HPへの掲載、ポスター、チラシ等の掲示により適切に実施することができた。								
今後の取組み	多様な働き方、新しい働き方をはじめ、従業員が働きやすい職場環境づくりについて、従業員、事業主に対する意識啓発を広報、町HPへの掲載、ポスター類の掲示により今後も継続的に実施していく。								

基本目標4：壬生町で安心して元気に暮らす

数値目標	健康福祉課	基準値 (H30)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
要介護認定者数		1,828人	1,944人	1,927人	2,013人	2,019人	2,066人	2,200人以内 (増加率20%以内)	順調に推移

○戦略プロジェクト4-1：安全で利便性の高いまちづくり

KPI	総務課	基準値 (R1.12)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
自主防災組織数		25団体	31団体	34団体	35団体	38団体	39団体	40団体	順調に推移
実績値の分析・評価	令和6年度末時点で39の組織が設立されている。毎年着実に増加している。								
今後の取組み	未設置の自治会に情報提供を実施し、自主防災組織の整備率を上げていきたい。								
KPI	生活環境課	基準値 (H30)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
人口千人あたりの犯罪被害件数		4.46件	4.69件	4.12件	5.28件	6.93件	8.08件	4.23件以内	努力が必要
実績値の分析・評価	<p>秋・年末の地域安全運動期間において、町防犯組合連絡協議会、栃木警察署、町による街頭啓発活動を実施した。町安全安心指導員による防犯教室も各所で実施することができた。特殊詐欺の電話に有効な特殊詐欺対策電話機等購入費補助金については、令和2年の開始以降毎年数十件以上の実績で推移している。</p> <p>一方、町内における犯罪認知件数は、金属の盗難件数の増加が顕著で、総数は令和5年と比較して増加した。</p>								
今後の取組み	<p>特殊詐欺対策電話機等購入費補助金事業については、引き続き事業を実施し、更なる制度周知を行い、特に高齢者の特殊詐欺被害の未然防止を図っていく。</p> <p>警察をはじめ、各防犯組合との連携を強化し、啓発活動、防犯パトロールなどを実施していく。</p> <p>また、防犯教室の開催を引き続き実施し、最新の犯罪手口などを紹介することにより被害の未然防止を図っていく。</p>								

○戦略プロジェクト4-2：生き活きと町民が躍動するまちづくり

KPI	生活環境課	基準値 (H30)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
町民活動センター「みぶりん」登録団体数		315団体	330団体	338団体	356団体	352団体	357団体	430団体	順調に推移
実績値の分析・評価	平成26年度開設から10年を経過し、登録団体が参加する「みぶりん活動発表会」もこれまでに15回開催されている。みぶりんによる継続的なサポートにより、登録団体数も年々増加しており、今後も協働のまちづくり推進拠点としての役割を高め、機能強化を図って行きたい。								
今後の取組み	<p>壬力UPボランティア活動支援事業による団体支援や、町民活動支援センター利用者協議会を通じた団体間の連携強化など、これまでも登録団体の活動支援を行ってきた。今後も未登録の団体等へ呼びかけるなどして、登録団体数の増加を図る。また、分野別交流会を開催し、団体の横のつながりを強化することで、さらに活動を活性化させていく。</p> <p>今年度中に旧庁舎跡地「ふらっと壬生テラス」に移転することから、より町民に身近な組織となるよう工夫をかさねていく。</p>								

○戦略プロジェクト4-3：健康長寿のまちづくり

KPI	住民課	基準値 (H30)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
特定健診受診率		32.2%	21.7%	30.8%	32.5%	35.3%	37.3%	52.2%	努力が必要
実績値の分析・評価	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、特定健診の受診率は基準となる平成30年度から令和2年度にかけて大きく減少したが、その後は年々増加を続け、令和4年度に平成30年度を上回り、コロナ禍前の水準にまで回復した。その後も順調に受診率を伸ばすことが出来ている。</p> <p>しかしながら、最初のつまづきの影響は大きく、当初の目標値とは大きな開きが見られる。また、県や国の平均値を下回る現状が続いており、更なる対策が必要となる。</p>								
今後の取組み	<p>令和5年度に開始した受診券の事前送付により、医師会からの健診勧奨の協力もあって個別健診（かかりつけの医院で受ける健診）の受診率向上が継続している。また、受診券が手元に送られてくることによって健診を身近に感じられるようになったためか、集団健診の受診率も向上が見られるため、今後も送付を継続するとともに同封する勧奨通知の工夫などを積極的に行っていく。</p> <p>また、集団健診の機会拡大について、休日健診、夜間健診、女性の日、託児の日などを行っているが、現行の施策では頭打な感があり新たな取組を模索していく必要が有る。</p>								

【国土強靱化地域計画効果検証シート（令和6年度事業）】

※「壬生町国土強靱化地域計画」のKPIを記載しておりますので、冊子と併せて御確認してください。

目標1：直接死を最大限防ぐ

重要業績評価指標 (以下、KPI)	総務課	基準値 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
自主防災組織の整備率		34.6%	38.3%	41.9%	43.2%	46.9%	48.1%	100%	努力が必要
実績値の分析・評価	令和6年度末時点で39の組織が設立されている。毎年着実に増加している。 (目標：81自治会全てに自主防災組織整備)								
今後の取組み	未設置の自治会に必要性や自主防災組織の活動補助制度等について情報提供を実施し、自主防災組織の整備率を上げていきたい。								
KPI	建設課	基準値 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7までの累計)	R7進捗度
空家除却数		-	3棟	4棟	2棟	4棟	3棟	15棟	順調に推移
実績値の分析・評価	倒壊等のおそれのある老朽空家については早急な対策が必要であり、危険な状態となる前に除却をするよう所有者に指導していく必要がある。								
今後の取組み	引き続き倒壊等のおそれのある危険な老朽空家の所有者に対し、除却や適正管理の指導等の対策を進める。								
KPI	学校教育課	基準値 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
ブロック塀の安全点検及び安全対策の促進(町内3小学校)		840m	829.2m	829m	829m	829m	829m	0m	努力が必要
実績値の分析・評価	該当の3小学校については令和2年度にブロック塀の劣化調査を実施するとともに測量を実施した。その調査結果により何らかの対策が必要であることが判明している。								
今後の取組み	劣化したブロック塀について、周囲の状況等も鑑みつつ必要性の高い場所からメッシュフェンスなどへの更新を図っていく。								
KPI	総務課	基準値 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
消防団定員充足率		89.7%	89.2%	90.1%	87.2%	86.2%	85.7%	100%	努力が必要
実績値の分析・評価	令和6年度末時点で定員203名に対して消防団員数が174名となっている。年々欠員数が増加傾向にある。								
今後の取組み	全国的に消防団員の確保が難しい現状ではあるが、消防団員の負担軽減及び処遇改善を図り、消防団員を確保していきたい。								
KPI	都市計画課	基準値 (R2)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
住宅の耐震化率		88.4%	88.4%	90.3%	90.9%	91.5%	92.3%	95.0%	順調に推移
実績値の分析・評価	令和6年度は、新築のほか、3件の耐震改修により耐震化率の向上が図られた。								
今後の取組み	広報紙や対象住宅所有者へのDM送付、個別訪問説明等により、住宅耐震化の重要性をPRし、更なる耐震化の促進を図る。 また、現在実施している住宅耐震化促進事業補助金についても事業を継続し、耐震促進を図る。								
KPI	総務課	基準値 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
防災メール登録者数		2,000人	2,499人	2,601人	2,680人	2,913人	2,995人	4,000人	努力が必要
実績値の分析・評価	令和元年度に発生した台風19号の影響により登録者数が増加したものの、目標値には到達していない。								
今後の取組み	広報紙や町の公式WEBサイトで防災メールの登録の周知を行っていきたい。								

目標2：救助・救急、医療活動が迅速に行われるとともに、被災者等の健康・避難生活環境を確実に確保する

KPI	建設課	基準値 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
重要物流道路整備率		57.1%	57.1%	57.1%	63.4%	70.4%	74.0%	100%	順調に推移
実績値の分析・評価	重要物流道路の主な路線は、昭和40年代に整備された道路であるため、経年劣化により損傷が進んでおり、現在の道路利用や災害時の緊急輸送道路網を考えると早急に整備を進めていく必要がある。								
今後の取組み	災害発生時に被災地域への救援物資等を迅速かつ確実に輸送できるように、令和3年度から交付金を活用し順次道路整備を実施し、緊急輸送道路網を構築していく。								
KPI	総務課	基準値 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
消防センター耐震化整備率		100%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100%	達成見込
実績値の分析・評価	消防センターについては耐震化整備率は、既に100%となっている。								
今後の取組み	今後消防センターの老朽化に対応するため、長期修繕計画により適切な時期に修繕を実施していく。								
KPI	総務課	基準値 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
一時避難に関する協定数		1件	1件	1件	1件	1件	1件	3件	努力が必要
実績値の分析・評価	1件 壬生自動車学校と締結済み。								
今後の取組み	大規模災害に対応するためにも、一時避難に関する協定の締結に向けて情報収集を行っていきたい。								
KPI	総務課	基準値 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
災害対応訓練実施状況		1回	1回	0回	0回	2回	1回	2回	順調に推移
実績値の分析・評価	令和6年度はHug訓練（避難所運営ゲーム）を実施した。								
今後の取組み	行政関係機関だけではなく、民間企業等も参加した大規模な総合防災訓練の実施を検討する。								

目標3：必要不可欠な行政機能は確保する

KPI	総務課	基準値 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
災害対策本部非常用電源機能整備		整備済	整備済	整備済	整備済	整備済	整備済	整備済	達成見込
実績値の分析・評価	災害対応業務に72時間対応可能な非常用発電設備を屋上に設置済み								
今後の取組み									
KPI	総務課	基準値 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
災害対策本部訓練実施回数		0回	0回	0回	0回	1回	1回	1回	達成見込
実績値の分析・評価	令和6年度は水防協議会開催時に災害対策本部図上訓練を実施した。								
今後の取組み	より実践的な災害対策本部図上訓練の実施を検討する。								

目標4：必要不可欠な情報通信機能・情報サービスは確保する

KPI	総務課	基準値 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
情報通信施設の非常用発電機配備率		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	達成見込
実績値の分析・評価	整備済み								
今後の取組み									
KPI	総務課	基準値 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
避難所用非常用発電機設置個所数		0%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	達成見込
実績値の分析・評価	避難所に非常用発電機を整備済み								
今後の取組み									

目標5：経済活動を機能不全に陥らせない

KPI	商工観光課	基準値 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7までの累計)	R7進捗度
BCP策定支援事業者数		0事業所	0事業所	0事業所	0事業所	0事業所	0事業所	6事業所	努力が必要
実績値の分析・評価	BCP策定について、事業者が町に相談する実績はない状況となっている。町では、事業者への支援の1つとして、県が開催するBCP策定セミナーの案内等を行っているが、今後もBCP策定のメリット等について町HP等で周知していく必要がある。								
今後の取組み	町HPにBCP策定のメリットについて掲載し、県と連携・協力し、栃木県BCP策定支援プロジェクトの活用などの周知、情報提供を実施していく。								
KPI	商工観光課	基準値 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7までの累計)	R7進捗度
BCP策定セミナー情報提供		6回	1回	3回	2回	2回	3回	36回	努力が必要
実績値の分析・評価	県主催のBCPセミナー開催の情報提供等を実施した。県のBCP個別策定支援についても事業者に対して周知したい。								
今後の取組み	中業企業が緊急事態に遭遇した時に、事業の縮小や廃業に追い込まれないためのBCPを早期に策定できるよう、BCP策定の必要性について町HP等で周知するとともに、栃木県BCP策定プロジェクトによるBCPセミナー、個別策定支援についての案内等を行っていく。								
KPI	農政課	基準値 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
下稲葉地区圃場整備事業進捗率		38%	58%	67%	85%	92%	100%	100%	達成見込
実績値の分析・評価	平成29年度に事業着手してから8年が経過し、令和6年度末現在、事業量（圃場面積）ベースでは進捗率は100%となった。現在残る業務は排水路のコンクリート製品化等の補完工事と換地業務のみで着実に事業を実施できている。 また、昨今の建設資材の高騰や人件費の上昇により工事費が増加傾向にあるが、事業間の土砂流用などを積極的に行い全体事業費の増加を抑制しつつ、確実な事業進捗に努めてきた。								
今後の取組み	事業主体である栃木県に対して下稲葉地区圃場整備委員会及び町土地改良区とともに連携・協力し、ほぼ整備完了した生産基盤を地域の中心的な農業者に農地を集める「集積」と農作業が連続的に出来るように農地を集める「集約化」を進め、生産コストの削減・収益性の向上など事業効果の早期発現を目指していく。								

目標6：ライフライン、燃料供給関連施設、交通ネットワーク等の被害を最小限に留めるとともに、早期に復旧させる

KPI	水道課	基準値 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
管路の耐震化		5,834m	6,045m	6,534m	6,592m	6,929m	7,128m	8,004m	努力が必要
実績値の分析・評価	自然災害発生時の水道機能を確保するため、災害拠点施設となる病院（獨協）に供給する基幹管路を優先耐震化路線として、耐震化工事を実施した。								
今後の取組み	耐震化優先路線の整備を推進するとともに、耐震化に適合していない管路の耐震化を計画的に進める。								
KPI	水道課	基準値 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
配水場の耐震化		0施設	0施設	0施設	1施設	1施設	1施設	2施設	順調に推移
実績値の分析・評価	北部配水場の配水地の耐震化を図るため、令和6年度に詳細設計を実施した。								
今後の取組み	災害時においても安全な水を安定して供給出来る体制の整備を目指し、令和7年度に北部配水場第2配水池の耐震補強工事着手を予定している。								

目標7：制御不能な複合災害・二次災害を発生させない

KPI	農政課	基準値 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
多面的機能支払交付金活動面積		582ha	623ha	729ha	808ha	811ha	811ha	732ha	達成見込
実績値の分析・評価	令和6年度末現在、交付金を活用して町内で8組織が活動している。農用地の草刈り等による農地維持活動のほか、機能診断を行い診断結果に応じた軽微な補修や、水路の補修・更新などの農用地の長寿命化を行っている。上記の活動を通じて、災害発生防止、さらには災害発生時の点検を行い更なる災害発生防止・軽減に貢献している。								
今後の取組み	令和3年度より田んぼダム整備が交付金の対象として追加されたことから、大雨時の対応等、農家個人に負担を強い部分や危険防止など考慮すべきこともあるが、各活動組織に対して計画見直しの際には田んぼダムの推進について働きかけを行っていききたい。 また、令和7年度からは上田地区において新規団体が立ち上がったため、活動面積の増加が見込まれている。引き続き中泉地区を含めた各地区における農地維持の必要性を見定め、需要に応じて新規団体を立ち上げ、活動面積の増加を目指していく。								

目標8：社会・経済が迅速かつ従前より強靱な姿で復興できる条件を整備する

KPI	生活環境課	基準値 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	R7進捗度
災害廃棄物処理計画策定状況		未策定	未策定	策定済	策定済	策定済	策定済	策定済	達成見込
実績値の分析・評価	策定済み								
今後の取組み	災害発生時に、県や近隣市町（宇都宮市、鹿沼市とは一般廃棄物処理に係る相互支援協定を締結済）及び災害廃棄物処理応援に関する覚書を交わしている民間事業者とも連携しながら、災害廃棄物を迅速に処理できるよう、継続的な計画の改善に努める。								

【地方創生拠点整備交付金事業効果検証シート】

※各事業について、事業概要（一部省略）、実施内容を基に国へ交付金の申請を行いました。

事業名：低年齢児向け“おもちゃ博物館”リノベーション事業

事業概要： 本事業により、1階及び3階にクッション性のある屋内遊戯施設を整備することで、0～2歳の低年齢児が快適に怪我なく遊べる施設を目指します。また、個別型空調管理のための改修工事を実施して、体温調節機能が未発達の子どもの安全に過ごし、子育て世代の親や祖父母が安心して見守ることができる施設の実現が可能となります。これらのリノベーションにより、施設の魅力を飛躍的に高め、平日を中心に新たな利用者層の拡大、リピーターの増加を図ります。

子育て世代の中でも、0～2歳の低年齢児を持つ保護者は、子どもの体調変化や動きなどに常に目を配る必要があり、特に平日は親子のみで過ごす場合が多いことから、少しリフレッシュしたいという要望も高く、屋内で安心して半日程度を過ごせる施設が求められているところであり、本事業のリノベーションでこうしたニーズに応えることで、リピーターの確保や年間パスポート（3,000円）の購入促進が期待できます。本事業の実施により、0～2歳の低年齢児と保護者が安全安心に過ごせる居場所づくりという子育て支援と、既存の観光資源の有効活用による広域的誘客の両立が可能となります。

実施内容【壬生町おもちゃ博物館】

- ・0～2歳児向け遊戯室リノベーション 2箇所
- ・個別型空調管理整備 1箇所

※実施事業の効果検証のため下記KPIを設定しました。

重要業績評価指標 (以下、KPI)	商工観光課	事業開始前 (R1.3)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値(増加分累計) (R7.3)	R7進捗度
観光客入込数		3,709,996人	2,096,029人	2,227,746人	2,665,324人	3,200,356人	3,519,599人	155,000人	順調に推移
実績値の分析・評価	博物館や各種イベントにおける集客は前年を上回る集客数のものがほとんどであり、コロナ禍で下がった数を順調に回復してきているといえる。								
今後の取組み	本町の観光の核ともいえる「道の駅みぶ」のリニューアルを進めており、日本一広い道の駅としてのポテンシャルを「いちご」「おもちゃ」「城下町壬生」などとの組み合わせにより、更なる魅力を生み出せるような取り組みを図っていききたい。								
KPI	商工観光課	事業開始前 (R1.3)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値(増加分累計) (R7.3)	R7進捗度
壬生町おもちゃ博物館入館者数		242,660人	36,002人	53,666人	175,915人	246,379人	294,668人	12,000人	達成見込
実績値の分析・評価	コロナ禍以前の水準まで回復したR5を超え、入館者数はさらに増加傾向にある。おもちゃ博物館開館30周年となる本年度に入館者数が累計500万人を達成するなど、博物館への新規来館、リピーターへ広く浸透している結果といえる。								
今後の取組み	イベント開催等による積極的な展開をしていくとともに、各種SNS等を活用し戦略的な宣伝・PR活動を図っていききたい。								
KPI	商工観光課	事業開始前 (R1.3)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値(増加分累計) (R7.3)	R7進捗度
壬生町おもちゃ博物館年間パスポート利用者数		1,008人	160人	355人	1,057人	1,531人	1,491人	800人	達成見込
実績値の分析・評価	おもちゃ博物館への入館者数も顕著に増加傾向にあるなかで、パスポートを利用するリピーターの利用の伸びにつながっている。								
今後の取組み	大人から子どもまで遊べる博物館に、県内外から来館してもらい、おも博の魅力にはまってもらえるよう、集客力につながる運営に努めるとともに、日本一広い道の駅とあわせて一日遊べるスポットであることのPR・宣伝を積極的に行っていききたい。								

【デジタル田園都市国家構想推進交付金事業効果検証シート】

※各事業について、事業概要（一部省略）、実施内容を基に国へ交付金の申請を行いました。

事業名：Mibu Love Active ～道の駅から始まるいちごとおもちゃのまちづくり～

事業概要：○壬生町の魅力をより具体的に整理し、顧客を惹きつける地域資源を活かしたリニューアルオープン後の目玉商品（いちご・おもちゃ関連）を地域一丸となって作りあげる。
○施設利用者の滞在時間を表すデータを取得することで、効果的に「道の駅みぶ」の魅力につなげることができているのか把握する。
○地域が望む施設の経営方針を盛り込んだ施設経営マニュアル等を作成し、施設経営の安定化を図る。

実施内容 魅力の商品化への支援
人流データ取得・分析
施設経営マニュアル等作成

※実施事業の効果検証のため下記KPIを設定しました。

重要業績評価指標 (以下、KPI)	商工観光課		事業開始前 (R4.3)	R5	R6	R7	R8	R9	目標値(増加分累計) (R10.3)	R7進捗度
みぶハイウェーパーク施設利用者数		目標値 実績値	- 1,489,198人	120,000人 159,482人	150,000人 22,257人	440,902人	120,000人	100,000人	930,902人	順調に推移
実績値の分析・評価			年度の目標数値には届いていないが、コロナ禍で落ち込んだ来場者は順調に回復してきており、令和5、6年度については、コロナ禍前の来場者数に近い利用者数(R5:1,951,271人、R6:1,973,528人)となっている。現在リニューアル整備工事を進めているが、本年度オープンしたMibu FRAiSEでの壬生産のいちごを使用した商品販売、シルバニア森のキッチンなど、「いちご」と「おもちゃ」らしさで、来場者数が大きく増加することが期待される。							
今後の取組み			道の駅みぶのリニューアルも佳境を迎えている。町の魅力発信の拠点として、日本一広い道の駅を構成する4施設のそれぞれの強みを活かし、ハイウェーパーク施設利用者の増につなげるようつなげていきたい。							
KPI	商工観光課		事業開始前 (R4.3)	R5	R6	R7	R8	R9	目標値(増加分累計) (R10.3)	R7進捗度
みぶハイウェーパーク売上高		目標値 実績値	- 442,989千円	30,000千円 262,457千円	25,000千円 50,207千円	323,824千円	60,000千円	22,000千円	460,824千円	順調に推移
実績値の分析・評価			コロナ禍で落ち込んだ各店舗の売り上げも順調に回復、前年を上回る売上となっている店舗が多い。道の駅への来訪者が増えていき、各店舗更なる売上となると見込んでいる。							
今後の取組み			リニューアルの1つであるMibu FRAiSEで地元壬生産の生いちごをふんだんに使用したクレープの販売がはじまるほか、リニューアルにより道の駅を訪れた人の動線を店舗エリアに向くことになることから、各店舗において壬生らしい魅力ある商品等の販売してもらうとともに、道の駅のPRを積極的に行っていきたい。							
KPI	商工観光課		事業開始前 (R4.3)	R5	R6	R7	R8	R9	目標値(増加分累計) (R10.3)	R7進捗度
みぶハイウェーパークリピーター率		目標値 実績値	- 26.0%	0.13% -	0.82% -	0.83%	0.85%	0.82%	3.45%	未評価
実績値の分析・評価			※人流データの取得に時間のズレが生じるため、数値の計上ができない。							
今後の取組み			道の駅みぶのマーケティング戦略や施設コンセプトに基づき、看板商品(Product)、過ごしたくなる空間(Place)、価格以上の価値(Price)、心動く情報(Promotion)を展開していくことにより、道の駅を通過点ではなく、目的地としての存在価値を高めるよう図っていく。							
KPI	商工観光課		事業開始前 (R4.3)	R5	R6	R7	R8	R9	目標値(増加分累計) (R10.3)	R7進捗度
いちごの生産面積		目標値 実績値	- 37.00ha	0.00ha -	2.20ha -	3.20ha	4.30ha	3.30ha	13.00ha	未評価
実績値の分析・評価			※国の統計情報である「農林業センサス」の結果公表（7年2月実施）がされていないため未評価							
今後の取組み			町の地域資源としての「いちご」の一層の生産、生産面積を増やす意味でも、いちごを使った商品開発・販売、ブランディング等による「壬生」＝「いちご」のブランドイメージをさらに構築していくことによりいちご生産に付加価値、生産者の収入増となるよう、農商工連携にも引き続き力を入れていきたい。							

【デジタル田園都市国家構想推進交付金事業効果検証シート】

※各事業について、事業概要（一部省略）、実施内容を基に国へ交付金の申請を行いました。

事業名：Mibu Love Active ～ 道の駅から始まる La chic ～

事業概要：「みぶハイウェーパーク」全施設の活性化に向けて、以下の整備により「道の駅みぶ」全体が目的地として認知される環境を構築します。

- 【継続的な魅力商品の開発のための加工所の整備】
- ・スイーツ等が製造できる菓子工房やお弁当やお惣菜等が製造できる調理室、農産物の出荷前の加工や滅菌処理及び冷凍保存ができる農産物加工室の整備。
- 【運営主体となる第三セクター事務所の整備】
- 【稼ぐ商業施設「チャレンジショップ」の整備】
- ・現在の情報発信コーナーと休憩施設の一部を活用し、チャレンジショップの整備を行います。
- 200㎡の面積に2店舗が営業する形態をとります。
- 【トイレの再整備による「みぶハイウェーパーク」施設内を魅せる動線の整備】 【各施設間の周遊性の更なる向上】
- ・デジタルサイネージなどを配置することにより、各施設間の周遊性の向上を図ります。

実施内容 商品の開発のための加工所の整備
 第三セクター事務所の整備
 「チャレンジショップ」の整備
 トイレの再整備による「みぶハイウェーパーク」施設内を魅せる動線の整備

※実施事業の効果検証のため下記KPIを設定しました。

重要業績評価指標 (以下、KPI)	商工観光課		事業開始前 (R5.3)	R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値(増加分累計) (R11.3)	R7進捗度
地域における農林水産出荷額	目標値 実績値		-	17,011千円	126,548千円	277,295千円	21,489千円	358,731千円	32,896千円	833,970千円	未評価
			5,290千円	-							
実績値の分析・評価		※国の統計情報である「農林業センサス」の結果公表（7年2月実施）がされていないため未評価									
今後の取組み		道の駅において、いちごをはじめ町内産の農産物を利用したオリジナル商品の販売や、壬生らしい農産物の販売により、町内の農業出荷について相乗的に上げることに寄与できるよう道の駅の運営帯とともに取り組んでいく。									
KPI	商工観光課		事業開始前 (R5.3)	R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値(増加分累計) (R11.3)	R7進捗度
みぶハイウェーパークの施設 利用者数	目標値 実績値		-	108,211人	300,000人	67,000人	69,000人	71,000人	75,000人	690,211人	順調に推移
			1,791,789人	22,257人							
実績値の分析・評価		コロナ禍で落ち込んだ来場者は順調に回復してきているが、コロナ禍前の水準に戻るまではもう少し時間を要すると感じている。しかし、リニューアルに伴い、来場者数が大きく増加することが期待される。									
今後の取組み		道の駅みぶのリニューアルも佳境を迎えている。町の魅力発信の拠点として、日本一広い道の駅を構成する4施設のそれぞれの強みを活かし、ハイウェーパーク施設利用者の増につなげるようつなげていきたい。									
KPI	商工観光課		事業開始前 (R5.3)	R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値(増加分累計) (R11.3)	R7進捗度
みぶハイウェーパークで販売する オリジナル商品の種類	目標値 実績値		-	2品	5品	2品	5品	5品	4品	23品	順調に推移
			4品	4品							
実績値の分析・評価		道の駅みぶの“道の駅切符”、“道の駅カード”、“道の駅ガチャピンズ”など、道の駅ならではのグッズを販売している。新たにオープンしたMibu FRAiSEで壬生産いちごを使用したクレープの提供がはじまるなどしており、オリジナル商品の品数を増やしていけるものと考えている。									
今後の取組み		今回オープンした「Mibu FRAiSE（みぶフリーズ）」のイチゴ使ったクレープの販売が開始されたが、更なる商品開発等を通して、壬生の魅力を発信・PRし、町内経済の活性化に取り組んでまいりたい。									
KPI	商工観光課		事業開始前 (R5.3)	R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値(増加分累計) (R11.3)	R7進捗度
みぶハイウェーパーク商業施設 の立ち寄り割合	目標値 実績値		-	0.0%	0.5%	1.5%	2.5%	2.5%	2.0%	9.0%	順調に推移
			35.0%	34.5%							
実績値の分析・評価		リニューアルによるトイレの再整備により、トイレ利用者がトイレのみならず、パーク内を周遊しやすい動線となるよう整備を実施した。リニューアルについては引き続き実施していく。									
今後の取組み		引き続き実施するリニューアルにより、ハイウェーパークを、通過点の立ち寄りスポットとしての利用ではなく、道の駅・構成施設が目的地として位置づけられるように整備を進めたい。									

【デジタル田園都市国家構想推進交付金事業効果検証シート】

※各事業について、事業概要（一部省略）、実施内容を基に国へ交付金の申請を行いました。

事業名：稼ぐ力と地域の賑わいを創出するための拠点施設整備事業

事業概要：○公共機能エリア

旧庁舎の会議室棟であった「ひばり館」を下記の内容によりリノベーションし、本町の創業支援、地域住民の交流促進に資するエリアとして整備する。これにより、壬生町内に新しい仕事・町民活動を生み出し、相乗的に本町の魅力を向上させる。

○ひばり館リノベーション

- ・6か月（1回更新、最長1年）で出店できるチャレンジショップを整備し、気軽に多様な業種がチャレンジ出来る環境を提供する。
- ・町民活動支援センターみぶりを移転し、多くの住民が気軽に立ち寄れる施設とする
- ・イベント等を実施できる広場を整備し、チャレンジショップOB・OGによるキッチンカー出店者やみぶり登録団体による屋外イベントの開催等、多目的に活用できる場とする。

実施内容 チャレンジショップの整備

- 町民活動支援センターみぶりの移転
- イベント広場の整備

※実施事業の効果検証のため下記KPIを設定しました。

重要業績評価指標 (以下、KPI)	住民課		事業開始前 (R5.3)	R6	R7	R8	R9	R10	目標値(増加分累計) (R10.3)	R7進捗度
地域の人口・世帯数		目標値		38,479人	38,509人	38,549人	38,599人	38,649人	38,649人(170人)	努力が必要
		実績値	38,479人	37,987人						
実績値の分析・評価			人口に関しては全国的な傾向と同様に壬生町でも減少傾向にある。要因として、出生率の低下や婚姻数の減少、高齢化の進行が考えられる。また、進学や就職を機に都市部へ転出し、地元にとどまらないケースも想定される。							
今後の取組み			旧庁舎跡地において、雇用機会の創出としてのチャレンジショップや地域住民の交流の場を整備することで、地域の活性化につなげる。また、イベント広場の整備を行い、定期的なイベントの実施やキッチンカーの出店などによる魅力のある地域づくりを推進して、本地区への転入増につなげたい。							
KPI	生活環境課		事業開始前 (R5.3)	R6	R7	R8	R9	R10	目標値(増加分累計) (R10.3)	R7進捗度
みぶりを活用した新規団体立ち上げ数(累計)		目標値		8団体	18団体	38団体	63団体	88団体	88団体(80団体)	努力が必要
		実績値	8団体	5団体						
実績値の分析・評価			平成26年度開設から10年を経過し、みぶりによる継続的なサポートにより、登録団体数も年々増加しており、今後も協働のまちづくり推進拠点としての役割を高め、機能強化を図って行きたい。							
今後の取組み			壬力UPボランティア活動支援事業による団体支援や、町民活動支援センター利用者協議会を通じた団体間の連携強化など、これまでも登録団体の活動支援を行ってきた。今後も未登録の団体等へ呼びかけるなどして、登録団体数の増加を図る。また、分野別交流会を開催し、団体の横のつながりを強化することで、さらに活動を活性化させていく。今年度中に旧庁舎跡地「ふらっと壬生テラス」に移転することから、より町民に身近な組織となるよう工夫をかさねていく。							
KPI	生活環境課		事業開始前 (R5.3)	R6	R7	R8	R9	R10	目標値(増加分累計) (R10.3)	R7進捗度
コミュニティカフェ売り上げ		目標値		0千円	750千円	900千円	1,050千円	1,200千円	1,200千円(1,200千円)	未評価
		実績値	0千円	-						
実績値の分析・評価			今年度、町民同士の交流の場、町民活動の発表の場のふたつを兼ねる施設としてコミュニティカフェの運営を開始する。コミュニティカフェの運営者を募集し、ふらっと壬生テラスのたいらやオープンに合わせて開店となるように進めている。							
今後の取組み			コミュニティカフェは、町民が民間商業施設の利用の際等に休憩等に使えるスペースとして利用できるようにし、だれもが気軽に交流できる場を創出していく。また、音楽活動や子どもとのレクリエーションイベントなど、多岐にわたる町民活動の発表形態に対応できるようにする。また、ものづくりなどの町民活動にも対応するとともに、地域の魅力PRに資する機能も持たせる。							
KPI	商工観光課		事業開始前 (R5.3)	R6	R7	R8	R9	R10	目標値(増加分累計) (R10.3)	R7進捗度
チャレンジショップ出店者数(累計)		目標値		0店舗	5店舗	12店舗	19店舗	26店舗	26店舗(26店舗)	未評価
		実績値	0店舗	-						
実績値の分析・評価			今年度、チャレンジショップへの出店者を募集し、ふらっと壬生テラスのたいらやオープンに合わせて開店となるように進めている。チャレンジショップの出店は6か月（1回更新、最長1年）を予定している。							
今後の取組み			チャレンジショップをはじめ、商工会の実施する創業・経営塾の受講者など、起業したい人がチャレンジショップへ出店できるよう周知等に努めたい。また、チャレンジショップの経験を活かし、まちなかへ出店する方への支援についても積極的に実施していく。							

【デジタル田園都市国家構想推進交付金事業効果検証シート】

※各事業について、事業概要（一部省略）、実施内容を基に国へ交付金の申請を行いました。

事業名：MMS情報を基盤とした情報公開によるまちづくりへの活用促進事業

事業概要： 本町は、県内でも人口が集中している宇都宮市、栃木市に隣接しており、利便性の高い両市への人口流出や買い物客の流出等、まちづくりに関する近隣都市圏の影響が顕著であり、持続可能なまちづくりの推進が求められている。そこで、本事業により3次元地図データを作成し、GISによりまちづくりに関する各種地図情報と併せて一般に公開することで、地域の利便性向上や情報発信を促進し、流入人口増加につなげる。将来的には、3次元地図データと現在本町で推進している公共交通の充実や災害等との連携を強化することで、コンパクトシティ形成を促進し、持続可能なまちづくりへとつなげる。

GIS…地理情報システム：地理的位置を手がかりに、位置に関する情報を持ったデータ（空間データ）を総合的に管理・加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能にする技術

実施内容： 3次元地図データ作成、道路台帳データベース化
GISのオープン化

※実施事業の効果検証のため下記KPIを設定しました。

重要業績評価指標 (以下、KPI)	総合政策課	事業開始前 (R5.3)	R5	R6	R7	目標値 (R8.3)	R7進捗度
オープンデータ閲覧者数	目標値	-	800回	1,000回	1,200回	1,200回	努力が必要
	実績値	-	155回	614回			
実績値の分析・評価		公式ウェブサイトに掲載しているオープンデータの種類はまだ少なく、用途も限られていることが、閲覧回数を伸ばすことができなかった理由であると考えられる。					
今後の取組み		周知を強化するとともに、住民のニーズを把握し、オープンデータの種類を増やしていくことで、KPIの目標値を達成できるよう努めていく。					
KPI	都市計画課	事業開始前 (R5.3)	R5	R6	R7	目標値 (R8.3)	R7進捗度
開発等の相談件数	目標値	-	20件	60件	80件	80件	達成見込
	実績値	-	63件	84件			
実績値の分析・評価		相談件数の多くは市街化調整区域のものが多かったが、六美町北部区画整理事業等による魅力的なまちづくりの推進により、それらの効果が市街化調整区域の開発相談にも波及したと考える。					
今後の取組み		六美町北部区画整理事業地内の区画道路の供用開始など住環境基盤が整いつつあることから、さらなる相談件数の増加が見込まれる。増加する開発相談に適切・丁寧に対応し町内の定住促進に繋げるため、開発許可事務担当部局と区画整理事業担当部局のさらなる連携推進を図る。					
KPI	総合政策課	事業開始前 (R5.3)	R5	R6	R7	目標値 (R8.3)	R7進捗度
マイナンバーカード利用箇所数	目標値	-	19箇所	20箇所	21箇所	21箇所	達成見込
	実績値	-	18箇所	21箇所			
実績値の分析・評価		マイナンバーカード利用箇所については、コンビニエンスストア20箇所のほか、イオン壬生店1箇所となる。					
今後の取組み		マイナンバーカード利用可能箇所の増加に向けて、郵便局等の公共施設としての側面を併せ持つ設置箇所の追加を含めて検討していき、住民の利便性の向上を図れるよう努めていく。					
KPI	都市計画課	事業開始前 (R5.3)	R5	R6	R7	目標値 (R8.3)	R7進捗度
六美北部地区内の店舗件数	目標値	-	3件	5件	8件	8件	努力が必要
	実績値	5件	1件	1件			
実績値の分析・評価		住宅専用地域の造成及び事業地区内の幹線道路となる都市計画道路及びその他の街区道路の整備に注力することとなったため、店舗建築が可能なエリアの造成が十分には実施できず、土地を用意することができなかった。					
今後の取組み		店舗建築が可能となるエリアの造成に着手していく。また、既に造成が済んでいるエリアにおいては、関係機関への情報発信等により土地活用を促していくことで、件数を伸ばして行く。					
KPI	都市計画課	事業開始前 (R5.3)	R5	R6	R7	目標値 (R8.3)	R7進捗度
六美北部地区内の転入世帯数	目標値	-	5件	15件	25件	25件	達成見込
	実績値	-	47件	69件			
実績値の分析・評価		事業地区内の幹線道路となる都市計画道路及びその他の街区道路を中心として、住宅専用地域の造成により、一定数の宅地の供給をすることができた。また、町のイベント時において、ハウスメーカーと連携して、当該エリアの情報発信を行うことができた。					
今後の取組み		引き続き宅地の造成、供給を行うとともに、ハウスメーカー等の関係機関と連携した情報発信等を実施することにより、転入世帯数を伸ばして行く。					
KPI	建設課	事業開始前 (R5.3)	R5	R6	R7	目標値 (R8.3)	R7進捗度
公開型GISの利用満足度	目標値	-	65%	70%	75%	75%	努力が必要
	実績値	-	-	54%			
実績値の分析・評価		公開型GISの利用者へのアンケート調査を実施し、利用満足度を測定することができたが、システム運用初年度であり、「検索のしにくさ」等の改善点についての意見も寄せられたため、KPIの達成が困難であった。					
今後の取組み		アクセス数を注視しながら、注目度の高いコンテンツの提供を目指すとともに、利用満足度から見えた課題の解決等により、事業を改善していく。					

【デジタル田園都市国家構想推進交付金事業効果検証シート】

※各事業について、事業概要（一部省略）、実施内容を基に国へ交付金の申請を行いました。

事業名：メタバース空間「バーチャル壬生町」を活用したDXまちづくり教育

事業概要： 本町は、県内でも人口が集中している宇都宮市、栃木市に隣接しており、利便性の高い両市への人口流出や、大規模商業施設への買い物客の流出等により、まちづくりにおける近隣都市圏の影響が顕著である。また、Society5.0時代に対応した持続可能なまちづくりを行う人材育成が急務であり、そのためには学校教育において、郷土愛や地域社会への貢献意欲の育成とともに、デジタルトランスフォーメーション（以下、DX）の感覚の醸成が求められる。一方、現在は授業時数や教員の負担の関係で町の様子を見学する校外学習（以下、まち探検）の機会は限定的である。また、DXの感覚を醸成するための設備面やソフト面で課題がある。そこで、まち探検に係る様々なコストを軽減し、より多面的に町の様子を把握できるよう、3次元の仮想空間（以下、メタバース空間）に「バーチャル壬生町」を再現し、観光面、防災面、産業面、歴史的側面などから町の様子を多面的に把握可能にするとともに、メタバース空間の体験によりバーチャルとリアルな複合的な視点からまちづくりの提案活動を行い、持続可能なまちづくりの担う人材育成を行う。

実施内容： メタバース空間「バーチャル壬生町」の構築
メタバース空間でのまち探検や防災教育、交流活動
Society5.0時代に持続可能なまちづくりの提案活動

※実施事業の効果検証のため下記KPIを設定しました。

重要業績評価指標 (以下、KPI)	学校教育課		事業開始前 (R5.3)	R5	R6	R7	目標値(増加分累計) (R8.3)	R7進捗度
メタバース空間を活用してまち探検を実施した回数が増加した学年の割合		目標値	-	50.0%	70.0%	90.0%	90.0%	順調に推移
		実績値	-	33.0%	83.0%			
実績値の分析・評価		町教育委員会や学校管理職、学校担当者からの啓発もあり、昨年度よりも多くの学年で活用することができた。一度活用したことがあるため実施に向けた心理的なハードルが下がり、担当教員もより活用することができるようになったものと思われる。						
今後の取組み		今後も学校において継続的・積極的に活用していただき、生徒にとってもより身近なものとして認識してもらうことでさらなる活用の充実に繋げていく。						
KPI	学校教育課		事業開始前 (R5.3)	R5	R6	R7	目標値(増加分累計) (R8.3)	R7進捗度
メタバース空間を活用して他地域との交流活動を実施した回数が増加した学年の割合		目標値	-	50.0%	70.0%	90.0%	90.0%	順調に推移
		実績値	-	33.0%	83.0%			
実績値の分析・評価		前項と同様に町教育委員会や学校管理職、学校担当者からの啓発もあり、昨年度よりも多くの学年で活用することができたことが目標達成の要因である。						
今後の取組み		引き続き来年度も年度当初から積極的に各学校におけるメタバース空間活用について呼びかけるとともに、交流先との日程調整、内容の検討、事前打ち合わせなど活用するための手続を進めていく。さらに過年度の事例や具体的な活用例を研究し、活用の一層の充実を図る。						
KPI	学校教育課		事業開始前 (R5.3)	R5	R6	R7	目標値(増加分累計) (R8.3)	R7進捗度
メタバース空間とプロジェクターを活用したまちづくりの提案に関するプレゼンテーションの件数		目標値	-	6件	12件	60件	60件	努力が必要
		実績値	-	2件	5件			
実績値の分析・評価		初年度と比較すると回数は増えているものの、目標値には遠く及ばない状況となってしまった。これはひとえに回線の重さに原因があり、本来生徒が個々にプレゼンをしたいところやおを得ずグループでの発表となったため、この程度の結果となってしまった。						
今後の取組み		今後は委託事業者により一層のデータの軽量化を求めるとともに、学校側にも授業などの一環としてプレゼンの機会自体を増加するように求め、目標の達成を図る。						
KPI	学校教育課		事業開始前 (R5.3)	R5	R6	R7	目標値(増加分累計) (R8.3)	R7進捗度
地域や社会への貢献意欲、郷土愛の育成		目標値	-	52.5%	60.0%	70.0%	70.0%	順調に推移
		実績値	-	52.5%	87.4%			
実績値の分析・評価		9割近い生徒たちは、自分のまちを良くしたいという思いをもっているとのアンケート結果が出ている。それはメタバースを使う、使わないに関わらず、これまでの多くの関わりの中で育まれてきたものであると思うが、今回のメタバース空間を活用したまち探検を通して、自分が住む町の新魅力に出会った生徒も少なくない。また、メタバース空間かリアルな町に関わらず、もっと自分の町について知らないことを探求したいという意欲もみられた。						
今後の取組み		今後もメタバース空間で実際に足を運ぶことなくともまちを探索することができる体験を通して、郷土愛や自分の住んでいる町を良くしたいという想いの醸成を図っていく。						

KPI	学校教育課		事業開始前 (R5.3)	R5	R6	R7	目標値(増加分累計) (R8.3)	R7進捗度
メタバース空間の利用の満足度	目標値		-	70.0%	80.0%	90.0%	90.0%	努力が必要
	実績値		-	65.0%	68.3%			
実績値の分析・評価			アンケートの結果として回線の重さや音声の聞きづらさ、接続の手間といったデメリットや、メタバースを利用する意義や価値を見いだせない、立体空間での利用を想像していたが平面だったことに期待を裏切られたように感じた等の回答があり、使い勝手の悪さを感じる生徒や活動に意味を見いだせていない生徒が一定の割合でいるようである。					
今後の取組み			今後は委託事業者に上記の課題の解決を求めていくことはもちろん、顔の見えない相手と繋がるのが危険であると考えている生徒もいるため、学校担当者を通じてそのような危険性はないことを理解できるよう指導を行っていくことで、目標の達成を図る。					

【デジタル田園都市国家構想推進交付金事業効果検証シート】

※各事業について、事業概要（一部省略）、実施内容を基に国へ交付金の申請を行いました。

事業名：デジタル技術を活用した行政のデジタル化による住民サービスの向上

事業概要： 現在の対面窓口では、行政サービスを受ける際には窓口まで行かなくてはならず、高齢者や子育て中の住民のような時間や場所、行動に制約があるような住民にとっては大きな負担となっている。そこで、行政手続きの効率化を図るために、タブレット端末及びノーコードで業務のシステム化や効率化を実現するアプリを作成できるクラウドサービスを導入する。これにより、住民サービスのオンライン予約や申請が可能となり、従来よりも短期間で住民サービスの提供を実現する。また、クラウドサービスに蓄積されたデータは、本町の移住・定住施策を検討する定量的なデータとして活用を行い、根拠に基づいた行政運営による住民サービスの向上を図る。システム導入後はクラウドサービスの拡張性を活かし、R6年度に活用を見込んでいる2サービスに加え、段階的に子育て支援等の他分野へ事業展開を行い、全庁的な行政手続きのデジタル化を推進する。R6年度をアプリ開発期間と想定し、各分野へ波及できるよう全職員分のクラウドサービスのアカウントを発行する。

実施内容： オンライン予約・申請の拡大
介護認定調査のオンライン化
家屋調査のオンライン化

※実施事業の効果検証のため下記KPIを設定しました。

重要業績評価指標 (以下、KPI)	総合政策課		事業開始前 (R6.3)	R6	R7	R8	目標値(増加分累計) (R9.3)	R7進捗度
住民向けオンライン手続きの数	目標値		-	2件	11件	20件	20件	達成見込
	実績値			105件				
実績値の分析・評価			サービスの導入の際に希望するほぼ全員向けの操作説明を実施したが、特にこれまで電話受付や来所による申し込みが主だった子育て関連施設に対してサポートを実施した結果、多くのフォームの作成がなされた。また、町民の利用満足度の向上のためにより多くのフォームを作成する必要があったことから、各係ごとに1つ以上のフォームの作成を指示。結果、操作に慣れるとともに、オンライン手続きの拡大の意識が向上したと思っている。					
今後の取組み			住民の利便性向上に繋がるオンライン申請手続きを増やすだけでなく、スマートフォンの操作が苦手な高齢者等に向けた教室も開催し、より多くの町民がデジタルの恩恵を受けられるよう努める。					
KPI	健康福祉課		事業開始前 (R6.3)	R6	R7	R8	目標値(増加分累計) (R9.3)	R7進捗度
調査員が勤務している1日あたりの介護認定調査件数	目標値		-	2.5件	3.5件	4.5件	4.5件	努力が必要
	実績値			2.0件				
実績値の分析・評価			介護認定調査に使用するアプリをkintoneで作成していたが、作成期間に遅れが生じ、実装がR7年3月中となくなってしまったことでKPIを達成することができなかった。					
今後の取組み			R7年度については申請件数が増加していることから、アプリを使って認定調査を実施することによって調査時間の短縮することや調査場所が近い申請があった場合は同日に調査するなどの効率化をしていき、調査を1日3件実施する日を増やして行きたいと考えている。					
KPI	税務課		事業開始前 (R6.3)	R6	R7	R8	目標値(増加分累計) (R9.3)	R7進捗度
固定資産税家屋調査の1日当たりの最大調査件数	目標値		-	5件	7件	8件	8件	順調に推移
	実績値			5件				
実績値の分析・評価			R6年度は、ノーコードツールを用いて家屋調査アプリを作成した。また、家屋調査時に同アプリがタブレット上で有効に動作し、効率化が図れるかの検証を一部の家屋調査時に実施した。全ての家屋調査をタブレットに移行したわけではなかったが、検証に伴い調査時間の短縮を図り、目標値である5件を達成することができた。					
今後の取組み			検証によりタブレット上で家屋調査表を入力することで時間短縮が図れると実証できたため、R7年度よりタブレットを用いた調査を本格的に実施し、1日あたりの調査件数を更に増加させる予定である。また、調査時の家屋間の移動においても、タブレットのマップ機能を有効に活用できているため、タブレットを用いてより効率的な家屋調査を進めていきたい。					
KPI	総合政策課		事業開始前 (R6.3)	R6	R7	R8	目標値(増加分累計) (R9.3)	R7進捗度
住民向けオンライン手続きの利用満足度	目標値		-	60.0%	65.0%	70.0%	70.0%	順調に推移
	実績値			71.0%				
実績値の分析・評価			来庁や電話を要せずに24時間365日申請や手続きをすることができることは、町民にとって利便性向上が図られたと思われる。					
今後の取組み			地域への影響力のある自治会長との会議での紹介のほか、広報誌や通知・資料等に二次元コードを添付することで、多くの方に目に触れてもらえる環境を整えた。また、これまで電話や来所での申し込みが主だった子育て施設の講座等の申し込みがデジタルで完結することが可能となったことから、満足度が高かったと思われる。今後は、デジタルデバインド対策として高齢者向けのスマートフォン講座等を通してオンライン手続きのことをより知ってもらう機会を設けたり、マイナンバー等を活用した仕組みについて検討していく。					

KPI	健康福祉課		事業開始前 (R6.3)	R6	R7	R8	目標値(増加分累計) (R9.3)	R7進捗度
介護認定新規申請・区分変更申請から調査までの期間		目標値	-	21日間	19日間	17日間	17日間	努力が必要
		実績値		35日間				
実績値の分析・評価		介護認定調査に使用するアプリをkintoneで作成していたが、作成期間に遅れが生じ、実装がR7年3月中と なってしまったことや年度後半に調査員の退職や傷病による休職があり、月当たりの調査可能件数が減ったこ とがKPIを達成することができなかった要因である。						
今後の取組み		R7年度についてはアプリを使って認定調査を実施することで1日あたり3件調査する日を増やしてい き、申請から調査までの期間を短縮していきたいと考えている。						
KPI	税務課		事業開始前 (R6.3)	R6	R7	R8	目標値(増加分累計) (R9.3)	R7進捗度
固定資産税家屋調査の1件当たりの調査時間		目標値	-	40分	35分	30分	30分	順調に推移
		実績値		40分				
実績値の分析・評価		1件当たりの調査時間は、従来、説明を含めて45分程度と想定していたが、R6年度はタブレット及びアプリの 使用により5分間程度を短縮し、40分とすることを目標値としていた。ノーコードツールで作成した家屋調査 用アプリは各項目を選択するだけでよいため現地での入力及び修正がしやすいものになった。また、事前に提 供してもらった図面の画像やタブレットで撮影した現地写真にタブレット用タッチペンを用いて直接情報を書 き込むことで、現地で必要な図面や資料を探す手間が減り時間短縮に繋がった。						
今後の取組み		タブレット及びアプリを用いた調査検証時には特段の事情(一度の調査棟数が多い等)がない限り、40分を超 えることはなく、タブレットを用いた調査に職員も慣熟してきたため、次年度以降は更に時間短縮を図るこ とができるようになる。						